

常願寺川流域の防災遺産を活用した災害教育と世界遺産登録を支援する 「語り部」の育成事業

立山砂防女性サロンの会

会長 尾畑納子

1. はじめに

近年の災害の多発現象は、地球環境、とりわけ地球温暖化による気象変動が多く起因しているといわれ、いつどこで災害が起こるかわからないといえる。富山県でも立山周辺の地下活動の活発化が懸念されている。このような状況の下、これまで培ってきた立山カルデラを取り巻く災害の歴史や防災施設の状況や役割を学び、防災意識を持つことの大切さを伝える「語り部」活動がますます重要となっている。

本年度は昨年に引き続き、「語り部」の育成の充実に努め、また、立山カルデラ内部の状況ばかりでなく、かつて災害をもたらした常願寺川流域の防災対策まで範囲を広げて学ぶこととした。すなわち、立山砂防内部の歴史的防災施設への理解、日本一の土砂貯留が可能な本宮砂防堰堤とその流域の防災施設、霞堤の機能など常願寺川流域を一体的に捉えた災害史を学び、将来にわたり防災意識の醸成と危機管理意識を一般市民に知らせる活動を、特に女性の細やかな視点に着目した「語り部」教育に力を入れて本年度事業を実施した。

2. 活動指針と内容

この事業では、全国的にも入山が難しい立山カルデラ内に入山するため、崩れの現状と防災施設について事前学習を十分行った後、カルデラ内で現地研修を行い、生活者としての観点から防災施設の重要性を学ぶ。また、近年白岩砂防堰堤が世界的にも珍しい防災遺産であるとして、富山県が世界遺産登録を目指していることから、立山を訪れる観光客に防災の観点から語ることのできる「語り部」の育成を目指す。これらを実現するために以下の事業を企画した。

①語り部育成のための勉強会

災害の歴史、防災技術、常願寺川流域での防災施設についての学習及び意見交換会
6月（記念講演会）、7月（文月勉強会）実施

②現地研修会

- ・立山カルデラ内の防災施設での現地研修
（白岩砂防堰堤、泥谷砂防堰堤、立山温泉跡地、幸田文氏の石碑などを視察）
- ・ハワイ・キラウエア火山地域の視察、現地女性との交流（海外研修）
- ・赤木正雄氏の生家「赤木展示館」での研修
- ・南三陸町、石巻市での震災後の復興状況の視察と仮設住宅住民との交流

③共催団体との連携事業（学習と広報活動）

- ・富山県、斜面防災対策技術協会、建設コンサルタント協会などの講演会において

聴講および講師として参加

④成果報告書の作成、広報用「語り部」ガイドブック作成（編集中）

3. 活動の成果

3-1 語り部育成のための学習会実施

①記念講演会：赤木新太郎氏「赤木正雄を語る」（2014. 6. 15）参加者300名

立山砂防の父といわれる赤木正雄氏の子孫で、赤木正雄展示館の館長赤木新太郎氏を招き、立山砂防事業に情熱を傾けた赤木正雄氏の生い立ちや、氏の多くの業績などを聴いた。

②吉友嘉久子アドバイザーの赤木賞受賞記念講演（2014. 6. 15）参加者300名

語り部として20年近く活動された吉友先生の立山カルデラに寄せる思いや、語り部としての「心」について伺った。

③文月勉強会（2014. 7. 4, 18, 25）3回、参加者60名

立山砂防事務所長 長井隆幸氏「砂防工事の現状」、立山カルデラ砂防博物館 館長 長本田孝夫氏「世界遺産登録への理解を深める」、大日本コンサルタント（株）吉川知弘氏「常願寺川の防災対策」と題して、3氏から立山カルデラの状況について、崩れ、世界遺産としての価値、防災施設、常願寺川流域の施設などについて伺うことが出来た。



写真1 文月勉強会の第1回実施（7/4）

本宮砂防堰堤の歴史と現状について、

地元の語り部山森氏による講話を予定していたが、当日台風の為実施できなかった。

3-2 現地研修実施

①立山カルデラ内での現地研修（2014. 9. 19, 10. 3, 会員20名, 一般20名 計40名）

立山砂防工事現場を中心とした現地見学会を実施し、「百聞は一見にしかず」の精神で草の根的な防災教育を実施。会員が一般市民へ説明し、語り部として活動した。

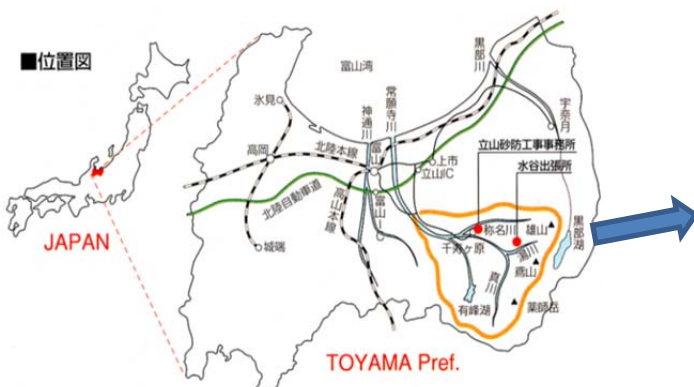


写真2 立山カルデラの位置と白岩砂防堰堤（右）

②ハワイ・キラウエア火山周辺の視察と現地女性との交流(2014. 9. 21~26 参加者 30 名)
現地研修に先立ち、8月8日富山大学大学院教授 竹内章先生からハワイ島の地形の特色などの講義を聴講し事前学習を行った後、ハワイ島キラウエア火山周辺の視察を行った。その後オアフ島に戻って現地の女性と交流会を開催し、当会の活動紹介や災害とくらしなどのテーマで意見交換を行った。
この研修の1か月後に御嶽山が爆発したことから、平成27年度は御嶽山の災害状況を視察する予定である。



写真3 現地人との交流(ハワイ)

③赤木正雄展示館での研修(2014. 11. 14-15 参加者 21 名)
赤木正雄博士の生家(兵庫県豊岡市)を訪ねた。この周辺地域はかつて災害の多い地域であったため、家屋構造は災害に備えた造りになっており、避難用のいかだ船が用意されていたり、防災林が庭に植えられるなど防災の工夫がなされていた。こうした博士の体験が立山砂防事業に貢献していくことになったと説明があった。

④南三陸・石巻災害跡地訪問・復興状況視察(2015. 23. 7-8 参加者 22 名)
東日本大震災から4年の歳月が経った東北の被災地を訪ね、防災意識を再度醸成することを目的とし実施した。今年で南三陸町防災庁舎の訪問は3回目となるが、私たち以外にも多くの人を訪れていた。この庁舎については保存か、解体かをめぐって結論が出ていない。また、周辺は10m土盛りが進み、初めて訪れた時とは景観がずいぶん変わってきた。また高台移転して住宅を立てているところは少なく、経済事情、人口減少など課題が多い。次に、小学生が全員避難した石巻の門脇小学校と多くの子供が犠牲となった大川小学校の跡地を訪ねたが、避難誘導の在り方が運命を大きく分けたことを肌で感じ、災害時の避難の在り方について



写真5 全員が助かった門脇小学校跡地

今後私たちが取り組む課題として取り上げたい。

3-3 共催団体との連携事業での研修、広報活動（一般市民対象事業）

①建設コンサルタンツ協会主催の「想定外の災害にどう備えるか」講演会（2014.10.19 参加者 27名）

群馬大学教授 片田敏孝先生の講演を聴講した。災害時における避難行動について家族間での十分な話し合いや行動についてルールを決めておくことの大切さを学んだ。女性の視点から今後の災害時の避難に備える上で大変有益な講話であり、今後の活動方針に取り入れたい。

②富山県主催の世界遺産登録国際フォーラム（2014.11.3 参加者 60名）

「立山砂防防災遺産として世界遺産登録を目指す」をテーマとして、国際シンポジウムが開催された。当会として、大学生へ立山カルデラと砂防事業、世界遺産登録に向けた発信をどのように考えるか、について尾畑が指導し、当日ユースプログラムとして大学生が発表した。

③斜面防災対策技術協会北陸支部主催の技術者講演会が開催され、その中で1つのテーマとして、26年度実施したキラウエア火山の視察について、女性の視点から立山砂防女性サロンの会役員の磯野くに子氏が講演を行った。

3-4 「語り部」育成のための資料作成

「語り部」活動を推進するため、昨年度に比べ、外部での語り部の方との交流や会員による語り部としての活動の双方から事業を実施してきた。さらに実力のある語り部の育成を目指し、今年度実施した事業の情報整理を行いガイドブックとして発行するため、まとめの編集作業を行っている。

4. おわりに

本事業の成果から、昨年度からのテーマである、「語り部」を育成するための基礎学習とともに、現地見学の実施による重層的な活動を通して、会員の意識を単なる「見る」「感動する」「伝える」活動から自立した語り部として成長し、さらなる活動の幅を広げる必要性を実感している。次年度の活動は、女性や市民目線での災害時における避難のための行動指針の作成や救済のための活動ができる、防災士資格取得、世界遺産登録を目指す立山砂防の防災施設観光ボランティアガイドも兼ね備える立山砂防女性サロンの会員は新たな視点をもった「語り部」として今後も研鑽を積み、活動の輪を一層広げたいと考えている。

謝辞：

本事業を推進するに当たり、立山砂防事務所所長 長井隆幸氏、立山砂防女性サロンの会アドバイザーの吉友嘉久子先生には数多くのご助言、ご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。また、本事業は、第19回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業の助成を受けて実施いたしました。心より感謝申し上げます。